



令和6年10月1日発行 第7号

皆野町立皆野中学校 TEL 62-0432 FAX 62-0076

【校 訓】剛き意志 深き愛 自由の胸 純なるこころ

【学校教育目標】「主体性」「社会性」「将来性」を培う生徒の育成

【めざす学校像のキーワード】心理的安全性とウェルビーイング

生徒数 1年76名 2年73名 3年85名 合計234名

Good winner, Good loser たれ

校長 板倉邦弘

9月14日(土)には、大勢のご来賓・保護者の皆様にご来校いただき、体育祭を無事に開催することができました。残暑が続き、熱中症の心配をしながらの準備期間でしたが、大きな怪我や熱中症もなく当日を迎え、皆野中学校生徒の晴れ姿を披露できたこと、そして多くの声援をいただいたことに改めて感謝と御礼を申し上げます。

9月19日(木)には、新人兼県民総合スポーツ大会都市予選会の先頭を切って陸上競技が行われ、男子総合1位、女子総合3位、男女総合1位、個人でも多くの選手が県大会出場権を得るという成績を収めることができました。2年生陸上部の選手と他の部からの有志選手とが力を合わせ、皆野中学校の力をアピールできたことを嬉しく思います。また、この学校だよりがお手元に届く頃には、球技・武道の新人兼県民総合スポーツ大会都市予選会も終わり、それぞれの部が目標に向かって努力した成果が出ていることと思います。

さて、体育祭も新人大会も結果として順位や勝ち負けがついてしまいます。私は、勝者にも敗者にも、あるべき姿あると思っています。はっきりとそう思うようになったのは、仙台育英高校硬式野球部・須江 航監督の言葉を聞いてからです。

仙台育英高校は強豪校でありながら日本一には届かず、須江監督が就任する前は不祥事で対外試合が禁止されるようなこともあったチームでした。何が足りないのか、どうしたら日本一になれるのか。須江監督は考えた末に「日本一からの招待」というスローガンを掲げ、技術も心も日本一にふさわしいチームをつくる決意したのです。詳細は紹介できませんが、見事日本一に招待された時の須江監督の言葉を覚えている人も多いと思います。そして翌年2連覇を目指して県予選が始まる時、須江監督は選手に「いつか君たちも負ける時が来る。その時にどういう態度で、どう振舞えるのか。人としての価値が問われるのは、その時だよ。」と話しているのです。甲子園の決勝で敗れ、慶応義塾高校のインタビューを拍手しながら直立で聞いている仙台育英選手の姿を覚えている人も多いと思います。勝った時にもおごらず、周囲への感謝を忘れない。負けた時にも相手への敬意を忘れない。まさに、good winner, good loser (よき勝者・よき敗者) とは、こういうチームのことだと思います。

たとえ勝ったとしても「あんな情けないチーム(相手)に負けたなんて悔しい。」と思わせるようなチーム(自分)ではなく、「あんな素晴らしいチーム(相手)に負けたのなら仕方ない。負けたけど悔いはない。」と相手に思わせることができるかどうか。勝者のあるべき姿はそこにあるのだと思います。皆野中の生徒の皆さん、“Good winner, Good loser たれ!”

(参考文献:『仙台育英 日本一からの招待』『伝わる言葉』須江 航 著)